

2017年12月16日(土) 早稲田大学 早稲田キャンパス 15号館1階02教室

アナログ的・デジタル的手法を組み合わせ させたALによる学力の三要素の養成 —地域連携・産学連携を事例として—

公益社団法人 私立大学情報教育協会

社会福祉学・社会学・教育学・統計学・体育学グループ

分野連携アクティブ・ラーニング対話集会

干川剛史(大妻女子大学・人間関係学部・教授)

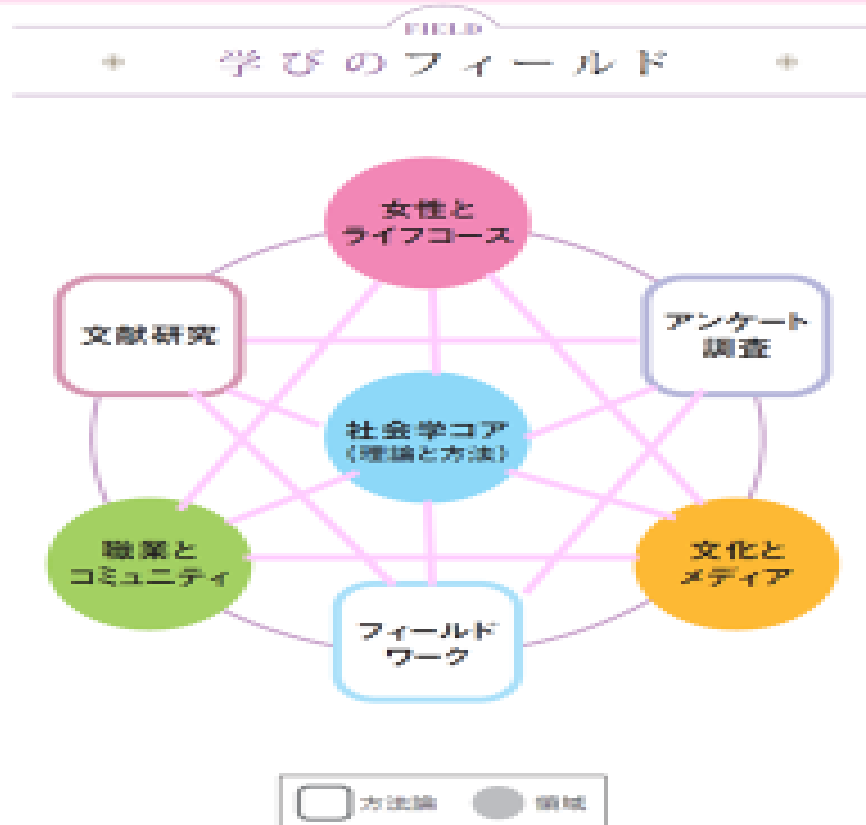
1. 演習（ゼミ）と社会調査実習を中心とした 大妻女子大学人間関係学部・人間関係学科・社会学 専攻のカリキュラム

社会学専攻の「学びのポイント」:

- 「社会のことを幅広く、深く学ぶ」
- 「少人数体制でコミュニケーション力を鍛える」
- 「社会調査を究める」
- 「社会を元気にする女性になる」

社会学専攻のカリキュラム構造及び学年進行

社会学専攻での学び



1年生

社会学の基礎を学ぶ

2年生

専門教育科目を中心に履修

3年生

卒業論文作成の準備

4年生

卒業論文の完成に向けて学習

2. 地域連携・産学連携をテーマとした社会調査 演習・実習から卒論ゼミを経て卒論作成へ

- 1年次:「社会学概論Ⅰ・Ⅱ」・「社会調査講義Ⅰ・Ⅱ」
- 2年次:「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」(干川クラス)－災害被災地(南三陸町)での復興イベント来場者調査の準備・実施・集計・調査報告書作成・報告会
- 3年次:「社会学セミナーⅠ・Ⅱ」(干川ゼミ)
＋地域連携プロジェクト(被災地復興を目的とした特産品「灰干し」の商品開発・事業化支援)・被災地での支援活動(復興イベント参加・応急仮設住宅住民支援等)・現地調査(被災地商店街来客調査・卒論作成のための調査)(任意参加)
- 4年次:「社会学セミナーⅢ・Ⅳ」及び「卒論指導」
＋地域連携プロジェクト・被災地での支援活動・現地調査(任意参加)
→卒論作成・指導・提出

3. アナログ的・デジタル的手法を組み合わせ たALとしての**社会調査実習・卒論ゼミ**

社会調査及び演習Ⅰの福興市来場者調査の様子
(2013年8月25日実施)



「社会調査及び演習Ⅱ」の福興市来場者調査の様
子(2017年11月26日)



3. アナログ的・デジタル的手法を組み合わせたALとしての社会調査実習・卒論ゼミ

- ・「社会調査及び演習 I・II」(2年次)ー前年度までの調査結果に関する情報共有・考察(調査報告書の発表・議論)[アナログ:レジュメを用いた発表・議論]
- 調査票の設計・作成[デジタル:パソコン+プロジェクター]
- 現地調査の実施(アナログ:調査票+ヒアリング・年4回実施)
- 調査票の集計[デジタル:パソコン+プロジェクター]+現地レポートの作成・提出[デジタル:パソコン+LMS(manaba)]
- 調査報告書作成・提出・編集[デジタル:パソコン+LMS]
- 報告会[デジタル:パソコン+プロジェクター]+[アナログ:レジュメを用いた発表・議論]

3. アナログ的・デジタル的手法を組み合わせたALとしての社会調査実習・卒論ゼミ

大妻女子大学 大学案内2017

ゼミ紹介

干川ゼミナール

被災地復興のために私たちができることを探る



Teacher's Voice
先生の声

社会学専攻
干川 剛史 教授

研究成果が直接
被災地支援となるのが醍醐味です

私の研究テーマは、インターネットなどの情報通信技術を活用した災害支援活動、また特産品の開発による被災地復興、地場産業の活性化についてです。研究室のモットーは“自ら進んで現地に行き、自分の目で見て話を聞いて、自分の頭で考える”こと。三宅島火山災害、霧島連山新燃岳火山災害、東日本大震災、口永良部島火山災害では、実際に現地に足を運び、被災地の方々と連携して特産品「灰干し(※)」の商品開発を行っています。研究成果が直接社会貢献に結びつくのが、研究の醍醐味です。

※魚介類や食肉、野菜などの食材を火山灰と冷蔵庫を使用して脱水、脱臭し、熟成させて作る保存食。



Student's Voice
学生の声

西田 里咲さん

社会学専攻 2016年3月卒業
栃木県立足利南高等学校出身

被災地と深く関わり
本当にやりたいことに出会いました

2年次の干川先生の授業で、宮城県南三陸町でひと月に一度開催されている「復興市」で来場者調査を行いました。その時、「地域復興についてもっと詳しく学びたい」と思い、3、4年でも干川先生のゼミを選びました。卒業論文のテーマは「灰干しプロジェクトと地域再生」です。被災した地域のために何かしたい、という思いで、気仙沼市(宮城県)と連携し、三宅島の火山灰を使用した「サメの灰干し」の商品開発を行っています。商品化まであと一息ですが、きちんと成果を出し、卒業後も宮城県の地域活性化に関わっていきたいと考えています。



「復興市」では、現地の方々にお話をうかがいました(左上)。「灰干し」を多くの人に知ってもらうため、新燃岳の火山灰でつくった灰干しも販売(左)。火山灰を砕き、ふるいにかける作業も行います(上)。

3. アナログ的・デジタル的手法を組み合わせたALとしての**社会調査実習・卒論ゼミ**

- 「社会学セミナーⅠ・Ⅱ」(3年次卒論ゼミ)[アナログ:卒論テーマに関する文献研究についてレジュメを用いた発表・議論]＋地域連携プロジェクト・被災地での支援活動・現地調査(任意参加)[アナログ]
- →「社会学セミナーⅢ・Ⅳ」(4年次卒論ゼミ)[アナログ:卒論テーマに関する卒論構想・文献研究・現地調査についてレジュメを用いた発表・議論]＋地域連携プロジェクト・被災地での支援活動・現地調査(任意参加)[アナログ]
- →「卒業論文」作成[デジタル:パソコン]・提出[デジタル:LMS]指導[アナログ:原稿添削・対面指導＋デジタル:LMS]

4. 学力の3要素(「思考力」・「判断力」・「表現力」)及び「主体性・協働性」の向上・発展のための課題

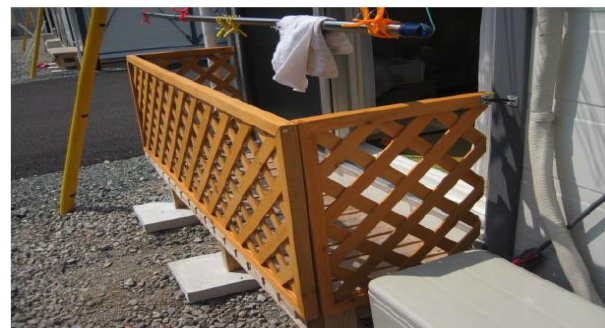
- 「思考力」の向上・発展←「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」における先行調査結果に関する発表・議論＋調査票の設計・作成＋調査票の集計＋現地レポートの作成＋調査報告書作成及び社会学セミナーⅠ～Ⅳにおけるレジュメ作成・議論
- 「判断力」の向上・発展←「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」における現地調査及び地域連携プロジェクト・被災地での支援活動・現地調査(任意参加)

「判断力」の向上・発展←被災地での支援活動・現地調査(任意参加)

[仮設住宅・津森]1歳のお子さんのいる家庭宅
・縁側からの子どもの転落防止に柵を付けて欲しい。
と要望を受けて柵を取り付けました。



縁側の柵の設置(作業中)



縁側の柵の設置(完成)

熊本地震被災地の益城町津森
仮設住宅団地での支援活動
(幼児の転落防止柵の作成・
設置作業)



1歳児に立って頂き柵の具合を試して頂く

九州北部豪雨災害被災地の「東峰テレビ」でのヒアリング調査



4. 学力の3要素(「思考力」・「判断力」・「表現力」)及び「主体性・協働性」の向上・発展のための課題

- 「表現力」の向上・発展←「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」における先行調査結果に関する発表・議論＋現地レポートの作成＋調査報告書作成及び「社会学セミナーⅠ～Ⅳ」におけるレジュメ作成・議論及び地域連携プロジェクト・被災地での支援活動・現地調査(任意参加)
- 「主体性・協働性」の向上・発展←「社会調査及び演習Ⅰ・Ⅱ」における現地調査及び地域連携プロジェクト・被災地での支援活動・現地調査(任意参加)

4. 学力の3要素(「思考力」・「判断力」・「表現力」)及び「主体性・協働性」の向上・発展のための課題

- ※課題: 基礎学力・知識・意欲に大きな差がある学生たちを対象にして、
- アナログ的・デジタル的手法を組み合わせながら、
 - 主体的に互いに協力し合えるように学力の3要素の向上・発展ができる教育方法を考案すること

—永遠の課題？